

平成28年度 学校自己評価システムシート (県立春日部高等学校・定時制課程)

| | |
|--------|---|
| 目指す学校像 | 基礎学力を身に付け、人権尊重の精神を養い、一人ひとりの生徒が生き生きと共に学び合う学校 |
|--------|---|

| | |
|------|--|
| 重点目標 | 1 安心安全な環境の中で、基本的な生活習慣を身に付けさせ、規範意識と自己管理能力を育成する。 2 「わかる授業」を実践し、進路に応じた学力の向上を図る。 3 キャリア教育を実践し、進路希望を実現する。 4 学校・家庭・地域社会への情報発信を通じて、魅力ある学校づくりを推進する。 |
|------|--|

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

| | | |
|-----|---|-------------|
| 達成度 | A | ほぼ達成(8割以上) |
| | B | 概ね達成(6割以上) |
| | C | 変化の兆し(4割以上) |
| | D | 不十分(4割未満) |

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

| | | | |
|-----|----------|---|---|
| 出席者 | 学校関係者 | 7 | 名 |
| | 生徒 | 2 | 名 |
| | 事務局(教職員) | 8 | 名 |

| 学 校 自 己 評 価 | | 年度評価(2月16日現在) | | | | | |
|-------------|--|---|--|--|--|-----|---|
| 年 度 目 標 | | 年度評価(2月16日現在) | | | | | |
| 番号 | 現状と課題 | 評価項目 | 具体的方策 | 方策の評価指標 | 評価項目の達成状況 | 達成度 | 次年度への課題と改善策 |
| 1 | <p>○多様な生育環境を有してきた生徒が在籍しており、規範意識の定着は不十分である。</p> <p>☆学習指導や学校行事への参加を通じて生徒が学校生活に前向きに取り組むことができ、基本的な生活習慣が身に付けられるような魅力ある教育活動を提供する必要がある。</p> | <p>○中途退学率、非行・問題行動発生率の減少</p> <p>○無断欠席者数の減少</p> <p>○学校生活に満足している生徒数の増加</p> | <p>①-1SCや担任による個人面談や報告会を実施し、情報共有と生徒理解に努め、効果的な指導を行う。</p> <p>①-2特別支援学校や関係機関を訪問し、コーディネーター等と連携を図り指導力向上を図る。</p> <p>②登校時の立哨指導を行い、日頃から全生徒との関係を深める指導を行う。</p> <p>③-1研修会を実施し、欠席・遅刻等の多い生徒の指導方法を学ぶなど、教員の指導力向上を目指す。</p> <p>③-2家庭や保護者との連絡を密に取り、連携した指導を行う。</p> | <p>①中途退学率が前年度より減少したか。(H27:11.6% 27名)</p> <p>①非行・問題行動の発生件数を減少することができたか(H27:13件)</p> <p>②出席率が90%以上になることができたか(H27:87%)</p> <p>③学校生活に満足する生徒の割合が80%を超えたか(H27:77%)</p> | <p>①中途退学者は15名、退学率は6.8%、2.2ポイント減。</p> <p>①出席率は88.7%であり、昨年度より微増であった。</p> <p>②学校生活の満足度、「とても満足」「満足」が81.4%であり、昨年度より増加した。</p> | A | <p>○1年生の面談および教育相談を早め実施し生徒の実態把握に応じた指導が必要である。</p> <p>○基本的な生活習慣を身に付けさせることが重要であり、長期的な粘り強い指導を今後も継続していく。</p> <p>○学校生活に対する満足度は高くなっている。今後も質の高い満足がはかれるように、授業改善や学校行事の充実にも努めていく。</p> |
| 2 | <p>○静かな授業環境は整備されているが基礎学力の定着は不十分である。</p> <p>☆基礎学力の確実な定着が大きな課題である。生徒のモチベーションを引き上げ、学力の向上と卒業後の進路実現に向けた取り組みを推進する。</p> | <p>○「授業がわかる」生徒数の増加</p> <p>○静かで落ち着いた授業の実現</p> | <p>①教員相互の授業参観や授業研究により授業改善を図り、学習サポートを活用しわかる授業を展開する。</p> <p>②少人数・習熟度別・テーマ別による、きめ細かな学習指導を実施する。</p> <p>③来校者及び生徒へのアンケート調査を実施し、結果を授業へ還元する。</p> | <p>①定期的実施する小・中学校の学年別理解力テストの成績が向上したか。</p> <p>②「授業がわかる」生徒の割合が80%を超えたか(H27:71%)</p> <p>③来校者や生徒の授業アンケートで「静かで真剣さが感じられる」が80%を超えたか。</p> | <p>①数学に関する小・中学校学年別理解力テストの達成度の結果は向上した。</p> <p>②授業理解度、「よく理解できる」「理解できる」が82%であり、昨年度より増加した。</p> <p>③生徒アンケートでは「静かに授業を受けた」は60%であった。来校者のアンケートは未実施であったが、学校見学者の感想では「予想以上に静かに真剣に授業に取り組んでいる」との感想が多数であった。</p> | B | <p>○授業理解度は少しずつではあるが上昇している。習熟度別学習指導や少人数学習が効果を上げている。大学生による学習支援サポーターの導入で、きめ細かい指導ができた。</p> <p>○静かに落ち着いた授業の実現により、学力向上と進路実現に向けた取組を今後も実践していく。</p> |
| 3 | <p>○卒業までに進路先を決定できない生徒が少なくない。</p> <p>☆入学時の早期からキャリア教育の実践と生徒の進路希望を実現するため、蓄積されたデータを</p> | <p>○進路未決定で卒業する生徒数の減少</p> <p>○第一希望の進路先実現者の増加</p> | <p>①進路講演会や分野別専門学校体験講座を開催する。(5月・2月)</p> <p>②授業や特別活動を活用したキャリアガイダンスを実施する。</p> <p>③-1総合的学習の時間に学習講座を開講し、進路実現に必要な基礎学力の向上に努める。</p> <p>③-2企業訪問とフッターを行い就労を支援する。</p> | <p>①進路未決定者の割合を30%以下にすることができたか。</p> <p>②正規雇用者の割合が30%を超えたか。</p> <p>③企業訪問を実施し、就職実現率を前年度比10%以上増加することができたか。</p> | <p>①進路未決定者の割合は17%で目標を達成することができた。</p> <p>②就職希望者のうち正規雇用内定者は68%で目標を達成することができた。</p> <p>③合同企業説明会の活用や来校された企業関係者との情報交換を充実させ求人依頼に努めた。今年度も、25名就職することができた。</p> | A | <p>○卒業時を見据えた長期的な進路指導を行い、進路実現に向けた機運を高めた。卒業生の進路決定者を90%以上にした。</p> <p>○各教科の協力による補習や進路指導で大学進学への実績も着実に実現できた。</p> <p>○教員全体で4年生の面接指導にあたり就職対策を実施し、希望する就職先は必ずつづけることができた。</p> |
| 4 | <p>○中学校へ最新情報を発信することにより本校に入学する生徒の割合が増えている。</p> <p>☆春日部高校定時制の魅力中学校訪問やHPの定期的更新など情報発信を工夫する必要がある。</p> | <p>○学校見学者数の増加</p> <p>○入学希望者数の増加</p> <p>○来校保護者数の増加</p> | <p>①中学校訪問や学校説明会・学校見学者体制を継続し、全教職員による計画的・組織的な体制で実践する。</p> <p>②受検希望の生徒への魅力的な学校案内を作成し、近隣の中学校に配布する。</p> <p>③適応指導教室へ計画的に訪問する。</p> <p>④定期的HPを更新し、最新の情報を提供する。</p> | <p>①体制が計画的、組織的に十分機能することができたか。</p> <p>②中学校関係者訪問数は増加したか。(H27:71件)</p> <p>③適応指導教室への訪問数は増加したか。(H27:85カ所)</p> <p>④定期的HPを更新したか。</p> | <p>①②③全教員で中学校や適応指導教室を昨年度より6校多い91校訪問した。特に適応指導教室へは2学期初旬に訪問し、本校の情報提供や適応指導教室に通う生徒の情報交換ができた。</p> <p>④学校HPのトップページ更新および学校だより、給食だよりを毎月掲載した。緊急対応情報が必要な台風接近時や大雪情報が発令された場合には最新の情報を掲載した。</p> | A | <p>○昨年と同様、中学校訪問や適応指導教室への訪問を実施した。入学志願者は現在のところでは未定だが、3学期に入り学校見学者希望者は増えている。</p> <p>○学校HPは多くの県民や中学生にとって貴重な情報源である。定時制の教育活動を積極的に情報提供していきたい。</p> |

| | |
|-------------------|---|
| 学校関係者評価 | 実施日 平成29年2月18日 |
| 学校関係者からの意見・要望・評価等 | <p>○入学当初に学習と労働のバランスについてアドバイスしてくれると、生活のリズムが整いやすいと思われます。</p> <p>○非行問題行動を起こす生徒は少なくなっている。一方、中学校時代から不登校傾向の生徒が増え、コミュニケーション能力が不足していることから友人関係を上手く構築できない生徒が多い。そのため、教育相談が必要な生徒が増加しており、SC・SSWとのきめ細かい連携が必要になってきていると思われる。</p> <p>○本校定時制に対する満足度や評価は高い。このことが後輩にも伝わり、春日部高校ならではの教育を実践してほしい。</p> <p>○とても良い授業・生活態度であると感心しています。ごく少数ではあるが本当にわからないまま、授業について行くことのできない生徒は投げてしまうでしょう。きめ細かく補習など実践している様子が保護者にも伝わるともっと保護者が協力しやすくなると思います。</p> <p>○授業が落ちていることと生徒の理解度は必ずしも一致するものではない。そのことを踏まえて基礎学力向上の取組はたいへんすばらしい。今後も授業改善を推進してほしい。</p> <p>○定時制卒業後の進路実現に向けて、意欲的に取り組む生徒が増えてきているように感じます。生徒のやる気と教員の支援が素晴らしいと思います。</p> <p>○就職希望者に対する丁寧な指導はとても大切だと思います。特にコミュニケーション能力を高めることやソーシャルスキル講習会、さらに生き方に関する教育を利用することはとても有効だと思います。</p> <p>○定時制は特別な生徒が通う学校と思われがちである。「学び直し」・「やり直し」のチャンスが現在のところでも必要であると思います。</p> <p>○学校HPは多くの県民や中学生の貴重な情報源となっている。今後も定時制の教育活動を公開し、開かれた学校づくりに取り組んでほしい。</p> |